



仙台市立黒松小学  
令和4年10月14日  
第11号

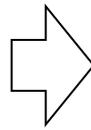
# 思いやり通信

## 九月の思いやりアンケートの結果

思いやりアンケート 6月

年 組 名前 \_\_\_\_\_

- 1 このごろ、誰かがいじめられているのを見たことがありますか。  
(1) ある (2) ない
  - 2 今、誰かにいじめられていますか。  
(1) いる (2) いない
  - 3 今、先生に相談したいことがありますか。  
(1) ある (2) ない
- あるに○を付けた人は、相談したい内容を書いてください



思いやりアンケート 9月

年 組 名前 \_\_\_\_\_

- 1 自分や友だちのしたこと、思いやりのある行動を見たことがありますか。  
(1) ある (2) ない
- 2 「ある」に○を付けた人はその内容を書いてください。
- 3 友だち関係のことで、先生に相談したいことはありますか。  
(自分の事でも友達同士のことでも)  
(1) ある (2) ない
- 4 あるに○を付けた人は、相談の内容を書いてください

9月に実施した思いやりアンケートの結果についてお知らせします。今回は一年生も含めて、ほぼ全ての黒松小児童から回答を得ることができました。前回の思いやりアンケート終了後から、今回のアンケートまでに寄せられたいじめの訴えは**9件**です。6月までが4件だったことに比べると同じ三か月で件数が増えてしまったように感じられます。しかし私は、**この件数を認知し、子供に寄り添えた事は一つの成果と受け止めています。**

以前こちらでもお知らせしたとおり、6月に実施したアンケートでは「今誰かにいじめられていますか？」という聞き方をしていました。私たちは、この聞き方だと友達に優しい気持ちを持っている子や自分で我慢してしまう子は、嫌な気持ちを抱えていたとしても表に出せないことがあるのではないかと考え、今回から質問の仕方を変えました。以前は「ある」に○を付けた場合には、内容の軽微にかかわらずいじめをしたとされる児童に指導をしたり、相手の保護者の方にも必ず連絡をしたりしていたので、児童にとってはある程度の覚悟を要する質問だったと思います。しかし、今回質問の仕方を変えたことにより「この件に関して先生にできることは何かな？」とか「先生達にどうしてもらいたい？」という聞き方ができるようになりました。この聞き方なら、はじめから友達関係のトラブルをいじめと決めつけることなく、**より子供の気持ちにより添った対応ができます。**このことにより子供たちも安心して友達関係の悩みを相談してくれたのではないかと考えています。

今回のいじめ事案では「パンチやキックされた」や「わざと足を踏まれた」や「持ち物に落書きされた」等の内容がありましたが、半数以上は「いやな言い方をされた」や「注意したら文句を言ってきた」等の**言い方の問題**でした。学校現場に身を置く者として改めて**コミュニケーションスキルについて学ぶこと**の重要性を感じています。「分かりやすく伝えること」と「相手の立場になって話を聞くこと」を子供たちに学んでもらえるよう、気を付けていきたいと思っています。



## 九月の思いやりアンケートの結果 ②

今回のアンケートでは質問1「自分や友達のした思いやりのある行動を見たことがありますか。」を新たに設けました。このことによって、**本校児童の思いやりに満ちた行為**をたくさん知ることができました。いじめ防止対策という観点から、友達同士の心のすれ違いに目が向きがちなのですが、身のまわりにはこんなにも温かい心の触れ合いがあることに気付くことができました。回答の一部を紹介します。



- ・泣いている人がいたときに「大丈夫？」と声をかけた。(4年女子)
- ・けがしたときだいじょうぶってしんぱいしてくれた。おてがみたくさんくれた。(1年女子)
- ・友達が休んでいる子の机を運んでいた。(4年男子)
- ・Tくんが「文字じょうずだね」って言うてくれました。(2年男子)
- ・そうじの時、AくんがBちゃんのところまで、バケツを持って行ってあげていたのを見ました。(4年女子)
- ・YさんとKさんに絵が上手に描ける方法を教えてもらった。(4年男子)
- ・誤って筆箱を落としてしまったときに、すぐに近くの人が落ちた物をひろってくれた。(6年男子)
- ・休み時間とかに、仲間はずれにされた子と遊ぶようにした。(6年男子)
- ・私が落とした物を拾ってくれたことと、解き方が分からない問題を教えてくれたことです。(3年女子)
- ・本を貸してもらったり、一緒に遊んでもらったりしました。(3年男子)
- ・ころんだときにSちゃんとRちゃんが「だいじょうぶ」といつてくれた。(1年女子)
- ・ないたとき みんなが なぐさめてくれた。(1年男子)
- ・「いっしょにかえろう」って言ったら「いいよ」って言うてくれた。(2年男子)
- ・算数プリントをやっていた時、一人で悩んでいたら、Yさんが自分の分が終わっていないのに「一緒に解こう。」と声をかけてきてくれた。笑顔で話しかけてくれてうれしかった。(5年女子)
- ・プリント直しでIくん優しく教えることができた。(5年男子)
- ・けがをしている人がいたら真っ先に助けに行こうとする人を見た。(5年男子)
- ・給食お代わりにゆずり合い。(5年女子)
- ・自分が悩んでいるときに友達が(LINEで)相談にのってくれた。(6年女子)
- ・毎日、人が落とした消しゴムや鉛筆を拾っている。(6年男子)
- ・友だちがころんだとき、すなをはらってあげて、手を洗いに水道までいっしょに歩いた。(3年女子)

## 仙台市いじめ実態調査

今年度も11月に「仙台市いじめ実態把握調査」を昨年同様に実施いたします。普段の思いやりアンケートとは違って、こちらの全仙台市小中学校で実施される調査は「児童生徒が保護者と話し合いながら回答する調査用紙をもとに、各学校がいじめの現状や児童生徒の状況を的確に把握し、いじめの予防及び早期発見、早期対応を図る」ことを目的としています。**保護者の皆様には児童が質問の内容を理解した上で回答できますよう、質問の意味を解説していただく等のご協力をいただければと思います。**

学校の対応といたしましては、被害児童はもちろんですが、関係児童からも状況の聴き取りを複数名の教員で丁寧にさせていただきます。聞き取りの結果、関係児童の反省を促したり、指導をしたりする場合があります。指導の内容や様子に関しましては、被害児童と関係児童の双方の保護者の皆様に連絡をさせていただきます。児童の中には「大袈裟にしたくない」や「今のままの関係でいたい」という感情から「聴き取りや指導はしないでほしい」という言葉が聞かれる場合もありますが、本調査の趣旨をご理解いただき、対応にご協力を頂ければと思います。